



WEBでの精神科専門医面接試験を終えて

第12回(2020年度)精神科専門医試験の面接試験は、去る2021年4月3日~4日、WEBによるリモート形式で実施されました。新型コロナウイルスの感染動向に関する見通しが見つからないなか、これまでどおりの対面での面接試験が難しいとの判断に基づく選択でした。結果として、当初の実施時期である8月下旬から約7ヵ月遅れての実施となり、2020年度に申請された先生方にはご迷惑をお掛けすることになりました。

コロナ禍にあって、多くの学会や研究会が、オンラインでのライブやオンデマンドの形式で行われることは、今や日常的になっています。しかし、本学会の試験委員会がWEB形式の面接試験の準備を始めた時点で、専門医試験の面接試験をオンラインで行っている他学会はありませんでした。また、精神保健指定医の資格審査にも口頭試験が導入されましたが、こちらは対面での実施が続いています。加えて問われるのは精神保健福祉法の運用に関する理解が基本的な内容であり、精神科医としての臨床能力やコミュニケーション能力を評価することが主目的ではありません。したがって、WEBでの面接試験に関する既存のノウハウをほとんどもたない状態でスタートすることになりました。そこでは、非常に限られた時間のなか、上野修一委員長のリーダーシップの下、試験委員会の委員、事務局がまさに一体となって実施方法をゼロから立ち上げることになりました。もちろん、そこには、学会のオンライン開催の経験が豊富な株式会社コングレから、WEB面接試験の実施においてもさまざまなサポートを受けることができたことも大きな力になりました。

しかし、精神科専門医の面接試験を従来と異なるWEB形式で行うことには、疑問や抵抗ももちろんありました。

そもそも人となりやコミュニケーション能力をWEB面接で評価できるのか、面接中にネット環境のトラブルが起きたらどうするのか、面接委員の先生方にWEB面接の実施にご賛同頂けるのか、受験生の個人情報をごどのように保護するのか等々。それでも、精神科専門医の資格認定が遅れることになれば、将来的に、研修機関の指導医数が不足したり、さらに専攻医の教育に支障が生じる事態が起こりうるため、「やるっきゃない」状況でした。

特に、専門医の面接試験では、コミュニケーション能力や精神医学的な思考プロセスといった定式化しにくい能力を評価するため、学生の臨床能力を試すOSCEの医療面接の場合のような標準化は難しくなります。その結果として、面接委員間、あるいは面接グループ間で、質問内容、ロールプレイの進め方、合否判定基準などのばらつきが大きくなることは好ましくありません。しかし、試験当日、面接試験の様子をWEB上でモニタリングさせて頂きましたが、面接委員の先生方からは、委員会からお願いした面接内容や評価基準に沿って、できるだけ公平な評価・判定を心掛けようと努力されている姿勢を強く感じることができ、大変頼もしく、またありがたく感じました。結果としては、ほぼこれまでの対面試験の場合と変わらない合格率であり、いろいろなお批判、改善点はありますが、まずは大過なくWEBでの面接試験を終えることができたのではと安堵しているところです。受験生の個人情報保護の問題では情報管理委員会の先生方にも多くのことをご教示頂き、大変勉強になりました。先頭に立ってプロジェクトを指揮された上野委員長とそれに応えた委員の先生方、そして、多大な時間を割き、煩雑な業務も厭わず、献身的に努力された事務局の皆様には本当に頭が下がる思いでいっぱいです。ありがとうございました。

兼子幸一